



—— 自立への道案内 ——



今回の自立記念日の主役は自立生活応援センターわかやまチャレンジのみなさんです。

もくじ

●俺たちの自立記念日（自立生活応援センターわかやまチャレンジ 場合）	2
●リレー・エッセイ（第6回）伝統と勇壮 だんじり祭り（山下大祐）	10
●バリアフリー情報（近鉄バス&阪神バス編）	12
●編集後記	20

大谷真之さんに聞く

“障害者自立支援法はこんな悪法！！”

～障害者自立支援法の影響を探る～

今号の「俺たちの自立記念日」は障害者自立支援法の影響を探るシリーズの第3弾です。今回は大阪を離れ、自立生活応援センター 和歌山 チャレンジ（和歌山市）代表の大谷真之さんに、障害者自立支援法の影響について伺いました。予想以上の厳しい状況に、インタビュー恒例の「これからの夢は？」という質問がしばらくの気持ちにさせられました。やはり「障害者自立支援法」は悪法だと思います。

～「自立生活応援センター 和歌山チャレンジ」誕生までの経過～

南光：和歌山市の自立生活センターってここだけですか？他の市にはないですよね？

大谷：はい、ここだけです。

松崎：和歌山チャレンジは何年目ですか？

大谷：4年目です。

松崎：和歌山チャレンジが出来るまでの経過を教えてください。

大谷：6年前に措置制度が変わり、ヘルパーは社協しかなかった時代で週2回しか派遣できないと言われていたが、そこからだんだんのぼしてもらって、支援費制度が始まった。ヘルパーは最初2時間だったが、夜も2時間になり、3時間になり、と言った感じで伸びてきた経過があります。

南光：そうした要求の動きの中で、和歌山チャレンジが出来たという事ですね。

松崎：どんな相談が多いですか？

大谷：作業所の相談とかです。作業所をしている人が、「お金がなくどうしようか」と相談に来たりします。

南光：その場合はどう答えますか？

大谷：せっかく作ったのだから「一緒に協力してやっていこう！」と言います。他は家探しの相談が多いですね。

松崎：いま「自立生活をしたい」という相談はありますか？自立に向けて準備をしているとか。

大谷：去年の12月に自立された方もおられます。病院に長く居られた方なので自立前から和歌山チャレンジで支援をしました。

南光：相談を増やすために取り組まれている事とかはありますか？

大谷：施設などへ行って、一人暮らしをしたい人を見つけて、広めていきたいのですが、和歌山は閉鎖的で、なかなか障害者自身が外に出ない。ピアカンや自立生活プログラムをやっても人が来ない。広報はしているつもりだけど・・・

松崎：反応はないのですか？

大谷：微妙です。どうやったら、みんなが「外へ目を向けるのか？」・どうやったら「外へ出られるようになるのか？」をよく考えます。

南光：「外出が自立を考えるきっかけ」になる事って多いもんね。

大谷：余裕があったときには、ヘルパーをここから派遣して、施設から出たい人と一緒に買い物や公園などに出られましたが、今はそんな事もできません。

南光：以前は企画などの参加者も多かったですか？

大谷：無料なら行くけども…という人が多くて困ります。今は自立生活プログラムに行くときの交通費とかも実費なんです。支援費のときは全体に余裕があったので、ピアカンの集中講座もできましたが、今はやれないです。

南光：和歌山チャレンジとして、相談支援事業は受けていますか？

大谷：市の相談支援事業は受けてないけど、県から指定の相談支援事業は受けています。でも全然活用は出来ていません。利用者がいないんですよ。もっと、相談支援の活用をうまくやりたいけど。

南光：委託の方の相談支援事業は受けようとする意思はあったんですか？

大谷：市に対してプレゼンテーションをしたんだけど認められなかった。

南光：他に相談支援事業を受けているところはどんなところがありますか？

大谷：施設が多い。うちで委託が取れていたらもっと色々出来てるのになあと思います。

南光：大阪市もナビなどが受けている相談支援事業がいつ切られるか分かりません。

～介護派遣もしています～

松崎：チャレンジのスタッフ体制を教えてください。

大谷：自立生活プログラムとピアカンは僕と保川の2人で何とかやっています。

南光：ピアカンとしての給料はどうなっていますか？

大谷：ないです。今は介護派遣の方から給料をもらっています。

松崎：コーディネーターは大谷さんがされているんですか？

大谷：はい。今は介護派遣を主にしています。

南光：では、相談事業のチャレンジとしては、どういうことをやっていますか？

大谷：ピアカン、自立生活プログラム、権利擁護とかです。チャレンジは7対3くらいで介護派遣事業をしています。その逆だったらうれしいんですけどね。それも僕自身がいつも悩んでいて、介護派遣だけじゃなく、ピアカンをもっとしなければいけないとか色々考えています。でも答えが見つからなくて

松崎：ヘルパーさんは何人くらいおられますか？

大谷：男性9人、女性12人で朝・夕・夜の支援が多いです。家のことをしないといけない主婦は難しいですね。

南光：21名いたらかなりの額でしょ？

大谷：はい。

松崎：男性ヘルパーが多くていいですね。

大谷：なかなか他のところでは男性ヘルパーはいないみたいですね。

南光：21名分の給料はヘルパー派遣だけでまかなっているんですか？

大谷：はい。何とかヘルパー派遣だけでやっています。相談事業を行っているチャレンジとしては何も入ってこないの。

南光：ヘルパーの時給はいくらですか？

大谷：1200円です。1200円引いたら、400円くらいしか事務所には入りません。区分6でも1700円程度でしょ？夜はもう少しありますが。

松崎：お話を伺っていると、かなり厳しいですね。

大谷：厳しい中でもやっていかないといけないと思います。

南光：和歌山チャレンジから介護派遣をしているのは何人くらいですか？

大谷：派遣しているのは11人です。そのうち4人が一人暮らしです。あとはみんな家族と一緒に。在宅も。結婚をされていたり、子どもと一緒に暮らされている人とかもいます。

南光：結婚してる人もおられるんですか？

大谷：脳性マヒの方です。あと、児童が一人います。もうすぐ成人になるけど。4人は僕と保川とあと二人。少し前ですが昨年の12月に一人暮らしをした方がいます。

南光：ああ～そうなんですか！

大谷：ええ。でもあと1人か2人は一人暮らしを、ここからの派遣じゃなく、ここができる前から、自分でやっている人もおられます。

松崎：介護派遣をしていく中で感じている難しさはありますか？

大谷：僕が思うに一人暮らし、自立の理念を分かってくれる障害者と、そうでない障害者がいるんです。

南光：理念と言うと？

大谷：「自分でヘルパーを使う」という事です。

南光：それはまあ、大阪にも自分で指示してヘルパーを使えない人もいますけどね。

大谷：そういう人に対しては「ヘルパーさんに主導で動いてください」と言ったりとかしています。指示を待っているのではなく「決まった事を決まったように」しています。

松崎：ここで介護派遣をしている方の障害種別は？

大谷：みんな身体障害者です。4人以外は家庭持っている人や子どもいる人などで全員女性です。

～和歌山の状況～

南光：大阪では一人暮らしする障害者が少しずつだけ増えてきて、マンションを借りる条件も以前に比べたらだいぶゆるくなっていると思うんですが、和歌山ではどうですか？

大谷：和歌山市内でいえば、まだ4人くらいしか一人暮らししていないんです…。

松崎：一人暮らしをするにあたって、マンションなどを借りるときに断られることはありますか？

大谷：この事務所は、知り合いに探してもらいましたが、大家さんに断られることが多いです。火が危ないとか、車イスで家に中に入ると畳が悪くなるとか言って断られます。生活保護でもらえる金額で探すと、駅から遠いか、ぼろい家になってしまう。駅からちょっと遠くなったらスーパーやコンビニもなく、余計不便になる。

松崎：市営住宅はないのですか？

大谷：ありますが、単身では入れません。家族と一緒にじゃないとダメ。

松崎：一人暮らしの方は生活保護を受けていますか？

大谷：1人だけです。あとは年金暮らしです。

松崎：生活保護を受けるときは厳しいですか？

大谷：大阪は障害者がいっぱい一人暮らししていて、生活保護を受けている人がいていいけど、和歌山は全然ダメ。役所の人知識がなさ過ぎて、生活保護を受けられても、他人介護料の説明をするのもしんどいです。本などを持って行って説明しないとダメ。こっちが言わないと動いてくれないし。

松崎：多くの障害者は施設や家族と暮らしているのですか？

大谷：はい。よっぽど重度でないかぎり206時間まではいかないし、100時間くらいの支給決定では地域での生活が難しくなっています。

松崎：和歌山市には作業所やグループホームはありますか？

大谷：作業所はいくつもありますが、グループホームは知的や精神ではありますが、身体はありません。

南光：そうなんですか。

大谷：グループホームを作る事についても市と一度相談しましたが、あんまり予算がつかないようなのでやめました。

南光：日中活動の場としての作業所は？

大谷：軽度の人が行く作業所はありますが、重度の人は行く場所がない。市内に知的の作業所はたくさんありますが、身体作業所は少ない。特に重度の人は行くところがないんです。

松崎：結局は家にいてるって事ですよね。

大谷：重度の人は家にこもっています。ここでも作業所を作ろうと思ったのですが、市からの補助がおりにくい。最低1年は実績が要る。作りたいが1年も持ち出しでするのは厳しい。市は今ある作業所に、地活センターⅡ型やⅢ型に移行しろなどと言う。

松崎：1年間の実績+費用の持ち出しとは厳しい条件ですね。

大谷：友達がやっている作業所も苦しいみたいで、今度、地域活動支援センターの3型に移行しろと言われていて、人数が足りません。市役所から人数が足りなかったら閉めなさいなどと言われていたみたいです。

南光：ひどい事言いますね（怒）

～自立支援法になって変わった事～

松崎：障害者自立支援法の影響を探るっていうのが今回の取材のメインテーマなんですが一番変わった部分はどこですか？

大谷：財政面です。前は介護派遣部門の収入も含めて全体でなんとかやっていたんですが、自立支援法が始まって単価が下がってしまいました。

南光：身体介護なら単価が高いけど、重度訪問介護の場合は単価低いもんね。

大谷：和歌山市はお金がないから、重度訪問に変わっています。事業所としても苦しいです。とてもやっていけません。

松崎：重度訪問介護は「単価が低いからしない！」という事業所が多いんじゃないですか？

大谷：あります。だからこちらに流れてきます。ただこちら手いっぱいなので、新規はお断りしています。

南光：なるほど。

大谷：市はわかっていないのか、わざとかしらないけど、短時間でも重度訪問介護で決定してくるんです。特に夜の見守りを重度訪問介護にすると、受け手がいないのです。

～障害程度区分と時間数～

南光：障害程度区分はどうですか？

大谷：ちゃんとでていません。僕から見て、区分4～5に妥当と思われる方でも区分6がでたり、その逆もあります。

松崎：時間数の上限は決まっていますか？

大谷：和歌山は上限があって、区分4なら何時間、と言う風に。それ以上は出ないです。

南光：大阪市では、障害程度区分の6段階と家族の介護力を3段階に分け、それを組み合わせ、基準となる介護時間をまず出して、それにそれぞれの障害状況や生活状況によって何時間かが加算され、合わせた時間が利用できる時間数となります。一応重度訪問介護では301時間が大阪市の1ヶ月の上限ですけどね。

大谷：和歌山市では程度区分6でも206時間までです。それを超える場合は市町村審査会にかけられるんです。

南光：大阪市では、市と協議した上で301時間を超えているケースも数人は居ますが、実際に和歌山市では206時間以上認められる事もあるのですか？

大谷：そういうケースもあります。以前は支援費のときに478時間もらっていた人が、こないだの調査で377時間に減らされました。

南光：そんなに減らされて、生活は大丈夫なんですか？介護が空いている時間はどうされているんですか？

大谷：今は何とかなっていますが、介護が空いた時間は仕方なく一人でいます。一方で、不服審査というのを県に対して行っています。

松崎：その方のケースが一番長くて377時間ということですね。他の人はどれくらいになっているんですか？

大谷：一人278時間ある人が居ます。あとは100時間ちょっと。ほとんどが100時間台です。

松崎：皆さん重度訪問介護ですね？それぐらいの時間数で事業所としてやっていけるのですか？

大谷：いえ、やっていけないです。もう毎月赤字かとんとんでやっています。赤字の場合は僕らの持ち出しなどでやっています。

南光：事業所からの持ち出し（実費）でヘルパーを雇っているということですか？

大谷：はい。お金を借りてやっていくときもあります。

松崎：ものすごく深刻ですね。

南光：大阪では審査会の委員として当事者が入って意見を言っていますが、和歌山はどうですか？

大谷：障害者自立支援法が始まる前に市役所に当事者を入れてくれと言っていましたがダメでした。

南光：ダメだった理由は？

大谷：経験が浅いなどと言われました。

南光：障害者経験は何十年とあるのに！

～介護者不足はどこでも一緒!?～

南光：支援していく立場としてやりにくいことなどはありますか？

大谷：とりあえず男性は今のところ足りていますが、先行きを考えると思うようにヘルパーが集まらない、思うように派遣できないという状態が考えられるので、利用者に迷惑をかけるような状況になるのが心配です。

南光：ヘルパーが集まらない状況が全国的に同じようですが、和歌山チャレンジではどうされていますか？

大谷：僕らはチラシやポスターを作って配ったりしています。和歌山には大学などが少ないので、人集めも大変です。特に朝と夜勤が入る人が少ないです。昼間は主婦の人がいるんですが。

南光：集めただけではダメですね。資格を持っている人が必要ですね。

大谷：2級を持っている人しか雇えないんです。

南光：それなら余計に厳しいですね。重度訪問講座はNPO中部では自分のところでもやっていますが、和歌山チャレンジでは？

大谷：考えたけど、やる人がいない。僕らだけでは限度があるし、職員も支援に入っているし、出来ない状況です。

南光：体制的にできないということですね。

大谷：はい。

南光：そういう事を考えると、先程からお話されている方とかは300時間を越えているということですが、一方でヘルパーが足りないということやから、時間は確保できていても、ヘルパーが確保できていないという状況なら、派遣できないと思うんですが。

大谷：うちの場合、男性は何とか足りています。ただ女性が足りない。それと、時間数もだんだん減らされてきて…。市は「377時間でいっぱいいっぱい」と言い、足りなかったら「デイとかショートとか行け」と言われている人もいますが、本人は行きたくないと言って頑張っています。

南光：大阪でも「作業所などを利用しなさい」といわれています。地域生活支援事業の移動支援は使っていないんですよね？

大谷：ありますが短いです。使ってる人でも月10時間や、最高でも20時間ですが。

～大谷さんが思う事～

松崎：これらは和歌山市の事ですね。

大谷：そうです。他の市町村ではもっとひどいです。

南光：障害者運動に関わっている人はどれくらいいますか？

大谷：何人くらいかなあ？みんな自分の生活で精一杯でね。

南光：他の障害者に言いたい事がありますか？

大谷：昔の障害者は過激な活動もしていたと聞いていますが、今は交渉とかもあんまりしないから障害者運動に対しての関心も薄れてきた感じがします。

松崎：私たちも大阪でやっていますが、運動に対しての思いが薄れてきた感じはしますね。

大谷：あまりにもおとなしすぎると思います。もっと暴れていいとおもいます。

松崎：過激ですねえ～（笑）

大谷：だんだん介護時間を減らされて、市に『これで生活できる』と思われているなと感じます。

南光：まだまだ不十分やけど、昔に比べたら制度が整ってきたからね。

大谷：『これでは無理』と言わなければいけないと思います。

松崎：他に思う事がありますか？

大谷：差別的な発言があっても間違っていると言えるようにしなければいけません！『デイサービスやショートステイへ行きなさい』などと簡単に言ってはならない事、自分も何度も市役所に言うけど、市役所側は平気で言います。もっと勉強して市役所の人達と対等になれたらいいと思っています。

南光：いい事言うね!!!

大谷：昔の南光さんの時代みたいに元気な障害者が出て来ないかなと考えてます。やはり、今は僕を含めて元気がないです。

南光：大谷さんは元気だと思いますけどね。

大谷：昔の映像を見ていたら制度がなくて苦しいと思いましたが、やっぱりイキイキしていたと思います。誰かも言っていたけど制度に乗っかっているだけで、要求したりとか、あまりしない時代が変わってきたかなとすごく感じます。

松崎：厳しい状況が続いていますが、夢はありますか？

大谷：和歌山は大阪と比べてまだまだけど、和歌山にも障害者がいるのだから、やらないといけない事をしっかりと進めていって障害者が暮らしやすいように、これからも頑張って活動していきたいです。

南光：長い時間ありがとうございました。厳しい状況ですが、負けないで頑張ってください。

バリアフリー情報

阪神電鉄バス・近鉄バス 編

※ノンステップバス・ワンステップバス台数は08年2月8日現在

阪神電鉄

本社：	阪神電気鉄道株式会社
住所：	〒553-8553 大阪市福島区海老江1丁目1番24号
電話：	06-6457-2123
ファックス：	06-6457-2141
調査日：	2008年2月1日 (金)
調査者：	手動車いす使用者1名
乗車したバス停の鉄道最寄駅	○阪神本線 尼崎駅（エレベーターあり） ※個人的には珍しいなあと思ったのだが、障害者用トイレにトイレットペーパーがあった。大阪の私鉄駅で障害者用トイレにトイレットペーパーがあると珍しいのは私だけ？！
車いす使用者が乗車の際予約は必要か	当日の2～3時間前に予約してほしい。
車いすの固定方法	実際は、固定用のベルトがあるようだが、見当たらなかったのか車輪止めしかしてくれなかった。 車いすスペース、2台分あった。
その他、感想（全体の感想含む）等	◆車いすを固定しながら「あんまり、しないからなあ～」とボヤいていた。 ◆統計は取ってはいないが1ヶ月間でバス



を利用する車椅子使用者は少ないとの事。

- ◆阪神尼崎駅の障害者用トイレにトイレットペーパーがあった。ちょっと、ビックリ！！大阪の私鉄駅で障害者用トイレにトイレットペーパーがあることに珍しがるのは私だけ？！

リレーエッセイ

『伝統と勇壮！ だんじり祭り！！』

日本には、いろいろなお祭りがありますよね。みなさんの地域では、どんな祭りがありますか？今回は私の地元の「岸和田だんじり祭り」について語ってみようと思います。「岸和田だんじり祭り」は、9月と10月にあります。9月の祭りでは35台のだんじりが岸和田市内を走り回っています。

◎はじまりは・・・◎

「岸和田だんじり祭り」は、約300年の歴史と伝統を誇るお祭りで世界にも知られたお祭りです。元禄16年（1703年）岸和田藩主岡部長泰（おかべながやす）公が、京都伏見稻荷を城内三の丸に勧請し、米や麦、豆、あわやひえなどの5つの穀物がたくさん取れるように（五穀豊穰）祈願し、行った稲荷祭がその始まりと伝えられています。当初の祭礼は、「にわか」や狂言などの芸事を演じ、その後に三の丸神社、岸城神社へ参拝したようです。時代は流れ現在では「子供からお年寄りが中心となり各自治体が主体となって運営している。」と、だんじり祭り関係者や「だんじり祭り大好き人間」の方達は言っています。祭りが無い時期は、静かで特に何も無いであろう泉州地域なのですが、お盆が過ぎ、祭りの時期が近づくと、太鼓や笛の練習で市内は賑やかになります。（「うるさい！」という意見も中にはありますが・・・。）

全部の町ではありませんが、障害児・者も健全者と一緒に、だんじりを曳いている町もあります。これが、全部の町に広がったら、もっと、地域の人に障害児・者への理解が深まっていくのではないかと思います。

だんじり祭りの時に良く食べる物は「おでん」・「カニ」などがあります。祭りの時に「カニ」を食べることから「だんじり祭り」のことを「カニ祭り」とも呼ばれています。簡単ですが、以上が「だんじり祭り」の歴史です。

◎行ってきました！だんじり会館！！◎

「だんじり会館」が出来て、ずいぶん月日が経つと思うのですが、今年の2月に初めて行きました。近場って「いつでも行けるわ。」と思ったら、なかなか行かないもんですね。館内は、だんじりの3D（立体）ビジョンや大型マルチスクリーンで、だんじりが走っている様子を見ることが出来たり、その他、だんじりの歴史、だんじりの各部名称の説明、最古のだんじり展示等などがあつたり、だんじり嫌いの私でも結構楽しむことができました。いろいろ「だんじり祭りも奥が深いんだなあ。」と思いました。みなさんも、ぜひ行ってみてください。

※今年の9月の「だんじり祭り」の日程は以下の通りです。

2008年9月13日（土）・14日（日）です。よろしければ見に来てください！！私は、だんじりが苦手というか嫌いなので、特に用事がなければ、岸和田市から脱出して東京へ旅行に行ってきます！！

《岸和田だんじり会館》

【住所】

〒596-0074 大阪府岸和田市本町11-23

電話：072-436-0914

ファックス：072-436-0915

【入館時間】

午前10:00～午後5:00（入館は午後4:00まで）

【入館料】

大人：600円

小人：300円

（※受付で障害者手帳を見せれば無料）

【休館日】

・毎週月曜日（月曜日が祝祭日のときは開館）

・12月30日～1月4日



**これが、岸和田市内を走って
いる「だんじり！！」**

編集後記

まだまだ寒い日が続きますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？一月の下旬に自立記念日の取材で和歌山に行ってきましたが、その日はとても寒く和歌山では雨が雪に変わり、田んぼが薄っすらと白くなるほどでした。地球温暖化防止が叫ばれ、たしかに夏は暑いのですが冬は相変わらず寒く、私のように寒さに弱い者にとっては、温暖化のほうがむしろ「寒冷化」よりはいいのでは？と思ったりしてしまいます。みなさんも風邪にはくれぐれもご注意ください。

＜まつざき＞

今年は大阪市内でも10数年ぶりくらいに雪が積もりましたね。それ以来雪がよく降るのでビックリしています。冬は特に電動車いすのバッテリーの充電があまりもたない（俺の電動が特別もちが悪いのかな!?) ので好きになれないですねえ～。

さて、今回のナビゲーションはいかがでしたか？前号でみなさんに「ナビゲーションに関するアンケート」を送らせて頂きました。何通か返信を頂きましたので、ご希望に沿った内容が掲載出来るようにしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

＜こつぽ＞

△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△

自立生活センターナビとは…

☆ 私たちの考える「自立」は…

働いてお金を稼ぐ事や身の回りのことを全部自分で出来るようになる事、それだけが「自立」でしょうか？もちろんそれも大切なことですが、できない事は人の手を借りたり、気持ちを上手く伝えられないときには仲間にサポートしてもらったりしながら、一人一人の生活を創っていくことも「自立」の1つの形ではないでしょうか？私たちはこうした「自立」に色々な方法でお手伝いしていきたいと考えています。

☆ 地域で障害者の自立を実現していくための「道案内（ナビゲーター）」として例えば「介護してくれる人を探しているんだけど？」「家の中をもっと使いやすくしたいけどどうすればいいの？」そして「自立したいけど自分には無理かな？」

自立生活センター・ナビでは、こうした障害者や家族の悩みや相談について、障害を持つピアカウンセラーが同じ障害者の立場でお話を伺い、制度の説明や申請のお手伝い、住宅改造などのアドバイスをさせていただきます。その他、電動車いすで街へ出かけたり仲間と一緒に料理を造ったり地域で生活していく上で必要なことを、楽しみながら経験できる「自立生活プログラム」や、自立生活に関わる各分野の方々をお招きしてお話を伺う「自立生活セミナー」の開催、情報誌「ナビゲーション」の発行も行っています。

はつにち

発行

じりつせいふおつ

自立生活センター・ナビ

でんわ 06 (6760)2671

じゅうしょ

住所

〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2-3-8

おおさかのしひがしやふとしくとしがいふお

ファックス 06 (6760)2672